

事務事業評価

平成 30 年度

担当課

農林水産課

基本事項	事務事業名	和牛肥育支援奨励金事業					整理番号	1406
	根拠法令等	島原市和牛肥育支援奨励金交付要領			実施を義務付ける規定	○あり ●なし		
	関連する市勢振興計画の基本計画	章	第5章 「農漁商観」が融合した活力ある産業をつくる	予算科目	6 款 1 項 4 目	●継続 ○新規		
		節	第1節 農林業の振興	事業区分	助成・育成			
事業の目的・実施状況等	事業の背景 (課題、市民の要望等)	子牛価格の高騰により、肉牛肥育農家の経営が圧迫されていることから、高品質な和牛を飼養する農家を奨励することにより、生産意欲を向上させ、長崎和牛ブランドの確立を図る。					計画期間	始期 平成 28 年度から 終期 平成 30 年度まで
	事業の対象 (誰に・何に対して) 目的 (どのような状態にしたいのか)	高質な和牛を肥育する農家を奨励することにより、生産意欲の向上と和牛の高品質生産を進めることで、日本一に輝いた長崎和牛のブランド力をさらに向上させ、経営の安定と地域農業の活性化を図る						
	目的達成のための 具体的手段・方法	肉質の最高格付であるA5ランクを一年間で多く出荷した農業者を表彰する。(上位3人)						
	成果指標 (目的達成度を図るものさし)	名 称 等 ( 内 容 )		単位	28 年度	29 年度	30 年度	
		①A5ランクの出荷頭数を増加させる	目標	頭	84	86	88	
			実績	頭	89	87		
達成率			%	106.0	101.2	0.0		
②		目標	%					
		実績	%					
	達成率	%						
活動指標 (目的達成のために 行った活動実績)	①制度周知を図るため、頭羽数調査時に全肥育農家へチラシ送付		目標	チラシ送付	チラシ送付	チラシ送付		
			実績	送付済み	送付済み	送付済み		
	②		目標					
			実績					
事業費等の推移	年度		26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
	区分		実績値	実績値	実績値	実績値	予 算	計 画
	① 直接事業費(千円)		0	0	300	300	300	0
	財源内訳	国 県 支 出 金	0	0	0	0	0	0
		地 方 債	0	0	0	0	0	0
		そ の 他	0	0	0	0	0	0
		一 般 財 源	0	0	300	300	300	0
	② 従事職員給与費 b1×b2		0	0	75	0	0	0
	従事職員数(人) b1		0.00	0.00	0.01	0.00	0.00	0.00
	職員平均人件費 b2		7,317	7,438	7,484	7,546	7,663	
事業費合計 ① + ②		0	0	375	300	300	0	

【1次評価】

事務事業の評価項目と評価の視点		評価内容（判断理由、課題等）	
必要性	①社会環境の変化や市民ニーズに照らして、事業の必要性が薄れていないか	A=薄れていない B=一部薄れている C=薄れている	判定
	②事業を民間(NPO、市民、ボランティア等)に実施させることはできないか	A=市以外での実施は困難 B=一部民間での実施可能 C=民間での実施可能 売上等の個人情報を含んでいることから、市以外での実施は困難。	A
	③対象者は事業目的に見合っているか。また、事業を取り巻く時代変化や制度改正など、環境の変化に適応しているか	A=概ね適切 B=改善の余地あり C=見直しが必要 全肥育農家を対象として事業を実施しており、対象は妥当である。結果として、過去2年間の実績では同一農家(上位3名)が表彰されている。	B
有効性	④成果指標の達成に十分寄与する手法がとられており、結果として目的が達成されているか (成果指標と連動させること A=達成 B=概ね達成 C=未達成)	A=達成している B=一部達成している C=あまり達成していない 高品質な肉牛の出荷数によって表彰しており、品質面では一定の効果は見られるが、生産意欲の向上には、あまり繋がっていない状況である。	B
	⑤事業効果をさらにあげる余地はないか	A=効果向上の余地はない B=一部検討の余地がある C=検討の余地がある 出荷頭数ではなく、率での表彰が望ましいが、全出荷頭数を把握するのは困難である。	B
効率性	⑥事業実施により、費用や業務量に見合った活動結果が得られているか (活動指標と連動させる A=達成 B=一部未達成 C=未達成)	A=得られている B=一部得られている C=見直しが必要 上位農家への表彰が高品質な肉牛の飼養に直接関係しているとは限らず、結果として特定の農家が表彰の対象となっている。	B
	⑦必要な活動結果がより少ない費用や業務量で得られる手法に代えられないか	A=現行以上の手法はない B=一部検討の余地がある C=検討の余地がある 農家から報告を受け、証拠書類の確認を行っており、事務量の軽減手法は想定できない。	A
	⑧組織間の連携や役割分担に改善の余地はないか	A=改善の余地はない B=一部改善の余地がある C=改善の余地がある 農協の系統分以外の出荷分もあるので、農協だけの確認では把握できない。	B
公平性	⑨事業の対象者全員に偏りなくサービスが提供されているか 全体コストから見て受益者の負担割合は適切か 使用料等の見直しの余地はないか	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 特定の農家が表彰の対象となっている。	C
	⑩市民参加、市民協働が配慮されているか、市民参加を拡大する余地や、新たに取り組む余地がないか	A=概ね適切・現状維持 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要	C

判定評点平均（3点満点） A=3、B=2、C=1、「-」=0として換算	2.10
--	------

◎ 総合自己評価（所管部署）

評価結果	<input type="radio"/> A 継続実施(特段の見直しは行わない) <input type="radio"/> B 改善・見直しを行う <input type="radio"/> B1 事業規模の拡充 <input type="radio"/> B2 事業規模の縮小 <input type="radio"/> B3 事業内容の改善・見直し <input type="radio"/> B4 その他の見直し <input type="radio"/> C 休止(隔年実施などへの変更) <input checked="" type="radio"/> D 廃止(終期の設定等を含む)	判断理由	肥育経営の状況は悪化しているが、実施2年間同一の農家(上位3名)を奨励しており、対象者が限定されていることから、農家全体への波及効果に乏しく、肥育意欲の向上を目的とした本事業の成果があげられていない。
------	--	------	--

今後の課題及び改善策、見直しの状況  
 (実施上の課題等)  
 A5ランクの出荷頭数といった目に見える数値で本事業を創設したが、肥育期間の短縮や枝肉重量の増加を推奨する方が経営安定に繋がると思われるが、効果が見えづらく、県の施策でも成果がなかなか上がらない状況がある。

・総合評価で、「見直し・改善」を行うとした場合、見直しを行う上での今後の課題や事務事業の改善・見直しを行うことにより予想される効果も併せて記載してください。  
 ・本年度の事業を実施するにあたり、事業内容等の見直し(改革・改善、終期の設定など)を行っている場合は、その内容についても記載してください。

【2次評価】

総合判定	D 廃止
備考	対象となる農家総数が少なく効果も見えづらいなど、現在の状況や実態からすると公平性や有効性で問題がある。

【3次評価】

総合判定	
備考	

評価結果を踏まえた次年度予算への反映状況		
① <input checked="" type="checkbox"/> 事業費縮減(事業の見直し)	③ <input type="checkbox"/> 成果向上に向けた事業費増加	↓ 予算措置額の増減
② <input type="checkbox"/> 民間委託等によるコストの縮減	④ <input type="checkbox"/> 事務の効率化による現状維持(事業内容の拡充)	Δ 300 (千円)